

2-6-1 岐阜の「地・水・光・風」と共生する新庁舎

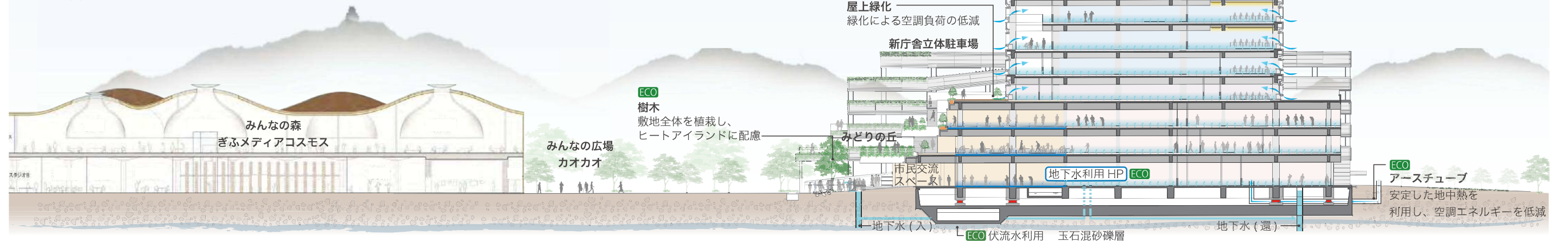
■ 基本方針

岐阜の地勢・気候・風土を活かした自然エネルギーや資源を活用

岐阜市の気候や風土に配慮し、再生可能エネルギーを積極的に利活用し、環境に配慮した庁舎とします。

- 豊富な地下水を最大限活用
年間17度と安定した温度の地下水を活用した熱源システムを採用し、ヒートアイランドに配慮します。
- 雨水を有効活用
雨水をトイレの洗浄水に利用し、庁舎全体の給水量を抑制します。
- 岐阜の豊かな太陽光を活用
岐阜の日照時間が長い特性を活かし、できるだけ自然光を取り入れ、照明の消費電力を低減するとともに、太陽光発電や太陽熱利用による省エネルギー化を図ります。
- 心地よい風を取り入れ、空調負荷を低減
自然換気を最大限活用するため、自然換気ユニットを設置します。
- 屋上緑化などによる空調負荷の低減
低層部の屋上を緑化するとともに、断熱性能の高いガラスを採用することで、空調負荷の低減を図ります。
- 適切な空調設備の配置によるエネルギー効率の向上
床吹き出しの空調システムを採用し、快適性を損なわず、効率的な温度環境を実現します。
- アースチューブによる地中熱の利用
一年を通じて温度変化の少ない地中熱を利用し、空調負荷を低減するとともに、自然換気に活用します。

- 長寿命で省エネルギーな照明計画
長寿命なLED照明器具を採用するとともに、各種センサーを利用し、省エネルギー化を図ります。
- 維持管理が容易となる設備計画
運転の自動化や集中管理機能などを充実させ、維持管理の手間が少ない設備計画とするとともに、エネルギー管理システム(*BEMS)による消費エネルギーの低減を図ります。(*BEMS: Building Energy Management Systemの略)



○岐阜の自然環境を最大限活用する新庁舎